❖道内12地区別主要事業の1JA平均
（ＪＡ道中央会まとめ）

	ＪＡ数	貯金	販売支払高	購買供給高
全　道	108	313億円	95億円	43億円
十　勝	**24**	**285**億円	**122**億円	**52**億円
道　南	4	440億円	97億円	34億円
後　志	4	235億円	92億円	42億円
日　胆	10	208億円	48億円	29億円
石　狩	5	992億円	59億円	31億円
空　知	13	380億円	66億円	41億円
留　萌	5	105億円	40億円	24億円
上　川	13	368億円	84億円	39億円
宗　谷	5	115億円	70億円	34億円
オホーツク	14	308億円	121億円	51億円
釧　路	6	155億円	115億円	45億円
根　室	5	224億円	190億円	76億円

畑作が大幅に前年を下回る中、生乳生産が1000億円の大台に乗せて下支えした。購買供給高の1241億円（3.6％減）、貯金は6848億円（3.1％増）で、いずれも全道トップだった。販売支払高は全道の３割弱、購買供給高は全道の４分の１を占めた。

地区別に１ＪＡ平均をみると、十勝は販売支払高が122億円で、根室の190億円に次いで２番目。購買供給高は52億円で２番目だった。貯金は285億円。都市部で准組合員が多い石狩が突出している。

士幌町がトップ

個々のＪＡ別の事業規模で、十勝のＪＡは純資産や当期剰余金、販売支払高などで上位に入った。純資産で、士幌町が207億円でトップ。４位に帯広かわにし、５位にめむろ、８位におとふけが入った。

当期剰余金で、士幌町が５億3000万円で２位。３位に鹿追町、４位に中札内村、６位に十勝清水町、７位に帯広かわにしとなった。貯金額は、上位に札幌などの都市型ＪＡが占める中、十勝からは帯広かわにし（６位）と士幌町（８位）が入った。

購買供給高（生産資材）では３位に士幌町、５位に帯広かわにし、７位にめむろが入った。生活物資では４位にハピオのある木野、６位に士幌町が入った。

組合員数では十勝の正組合員数（生産者）は0.9％減の9965人で、全道で３番目に多い。１位は上川の１万4221人、２位は空知の１万673人と米作地帯が多くなっている。准組合員数では十勝は1.4％増の３万851人だった。

農業ガイド1135号　2017年12月2日
2018年度生乳目標意向調査　十勝は１.4％増　伸び率全道最大
118万5千トン超狙う

道とホクレンが全道で2018年度の生乳生産量見通しをまとめたところ、十勝管内の増産意欲が最も高いことが分かった。10月時点で、管内24ＪＡの生産意向数量は合計118万5426トンと今年度目標比1.4％増。地域別の伸び率で最大だった。来年度の数値は今後変動する可能性があるが、今年産の牧草の出来がいいことなどが増産意欲の背景にあるようだ。

❖JA別 生乳生産意向数量
（10月時点）

JA名	2018年度生産数量(トン)	17年度目標増減率(%)
十勝清水町	12万2000	-2.2
鹿追町	11万5537	2.9
上士幌町	10万7585	1.0
大樹町	10万4000	3.3
士幌町	9万7029	4.9
豊頃町	6万9000	0.6
ひろお	6万0077	0.7
忠類	5万4250	-0.2
新得町	5万0540	1.2
おとふけ	4万5300	0.2
あしょろ	4万4344	0.1
中札内村	4万3500	-0.2
本別町	4万2940	11.1
陸別町	4万2100	2.4
めむろ	3万7553	1.7
うらほろ	3万4830	0.4
帯広かわにし	2万7750	-0.2
さらべつ	2万6444	-2.8
幕別町	1万9500	-5.1
帯広大正	1万5000	±0
十勝高島	8730	36.8
十勝池田町	8200	-4.7
さつない	6000	±0
木野	3217	-4.5
管内合計	**118万5426**	**1.4**
道内合計	387万6595	0.4

道農協酪農・畜産対策本部委員会（道酪畜対）とホクレン生乳受託販売委員会が資料を公表した。全道の18年度意向数量は387万6595トン。今年度目標を0.4％上回る。オホーツクなど６地域が今年度目標を下回り、増加見通しとなった十勝以外の５地域も伸び率は１％以下だ。

管内の意向数量は、ＪＡ十勝清水町が12万2000トンと最大。ＪＡ鹿追町（11万5537トン）、ＪＡ上士幌町（10万7585トン）と続いた。伸び率はＪＡ十勝高島（36.8％）やＪＡ本別町（11.1％）が高い。

道酪畜対などが各ＪＡの意向数量を集計したのは、乳業メーカーとの来年度の乳価交渉が続く中、道内酪農家の生産意欲の高さを示し、値上げへの理解を求める狙いがある。来年２月に再度聞き取りし、最終的な生産目標数量を固める。

ただ、今年度の生乳生産量は目標を下回って推移している。全道では４～10月の累計で前年同期比1.4％減。十勝管内も1.5％減だ。ともに16年度の通年実績を２％前後上回る目標なだけに達成は微妙だ。

道内では酪農家の離農が後を絶たない。「一般的に、新規就農や規模拡大で離農分を補えない地域は、数量見通しを引き下げざるを得ない」（ＪＡ関係者）。来年２月に、18年度見通しを下方修正するところが増える可能性がある。増産意欲拡大に向け、乳価の引き上げ幅拡大など経営環境の改善が期待される。